

第十七日目

師 範：源氏は平氏に敗れて、各地に逃れるが多くが殺されました。

しかし伊豆の源頼朝らは平氏打倒に燃えて、ついに兵をあげた。

1180年から1185年までの長い戦いが続いた。

結局は源氏の勝利に終わり、平氏は壇ノ浦の戦いでほろびます。

そして源頼朝は北に弟義経を追い、奥州藤原氏をほろぼします。

権力をにぎり、攻めにくい鎌倉に幕府を開きます。



1192年 源頼朝が鎌倉に幕府を開く。

この年は大切ですから、覚えましょう。

コン太：お父さんもお母さんも



「いい国にする頼朝」

と覚えたそうです。

これ以外にいいものは思いつきませんでした。

ペン太：すこし文を直して



「いい国になったか鎌倉幕府」

としました。11は「いい」で、92は「くに」と素直に読みます。

師 範：1192を「いいくに」と読むのがわかりやすいですね。

しかし「いい国」と鎌倉幕府が意味の上では、うまくつながらないという弱点がありました。

ペン太君の作品は、そこをなんとかつながるように疑問の形にしたのですね。

コン太：こんなのも考えたよ。

「公家の人々苦にする鎌倉幕府」

11を「ひとひと」として、92を「苦に」と読みかえてみました。

師 範：平安時代までは貴族とっていましたが、鎌倉時代ころになると公家といいました。

この公家さんにとっては、成り上がり武士のことはよく思っていませんでした。田舎の武士の荒っぽさや無作法な振る舞いは見苦しいというような言い方をして見下していました。

その武士が権力をにぎっても、公家から教わらなくて律令の理解も文書作りもかなわなかったのです。

その武士が政治を行い、公家にいちいち指図したり、荘園からの収入を入りにくくしたり、減らしたりするから、好ましい政権ではなかったようです。
コン太君は、鎌倉幕府の成立を、公家のほうからの視点で言ったものですね。

